

## FOMC – 1年ぶり利上げ、来年は3回を予想 –

### <政策金利を引き上げ>

12月13～14日（現地時間）に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催され、フェデラルファンド（FF）金利の誘導目標のレンジを0.25%～0.50%から0.50%～0.75%へ引き上げることを決定しました。

声明文では「労働市場およびインフレの現状と見通しを踏まえ、FF金利の誘導目標を引き上げることを決定した」としています。

FOMCの参加者による金利見通しでは、来年の利上げ回数が9月時点の2回から3回へと引き上げられました。

また、同時に発表された経済見通しでは、2016年の経済成長率が1.8%から1.9%へ、2017年が2.0%から2.1%へと小幅に上方修正されています。

### <米ドルは上昇>

今回の0.25%の利上げは予想通りであったものの、参加者による金利見通しが引き上げられたことを受け、米ドルは主要通貨に対して上昇しました。

14日海外終値は1米ドル = 117.04円、1ユーロ = 1.0536米ドルとなっています。

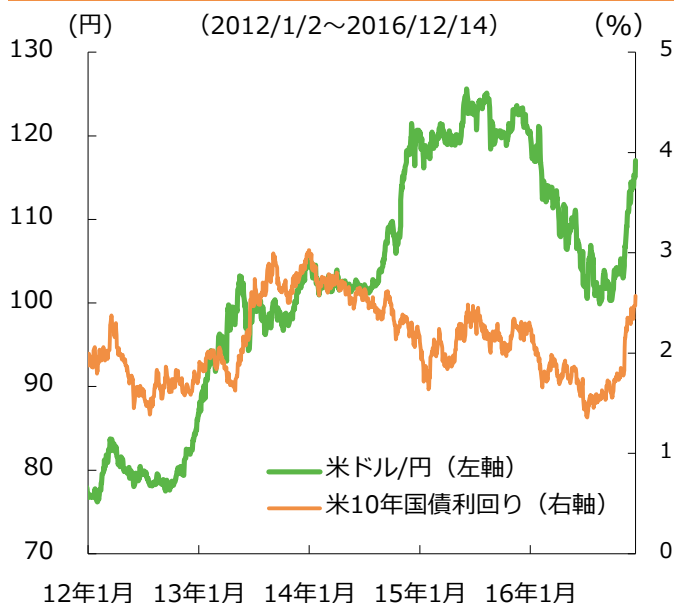
### <今後の見通し>

11月8日の米大統領選では事前予想を覆しトランプ氏が勝利しました。一時リスクオフの流れになりましたが、トランプ氏が掲げる米国経済重視の政策が評価され、米長期金利が上昇し米ドル高となりました。堅調な経済成長や雇用環境の順調な回復を背景にFRBは来年以降も利上げを継続すると予想されます。

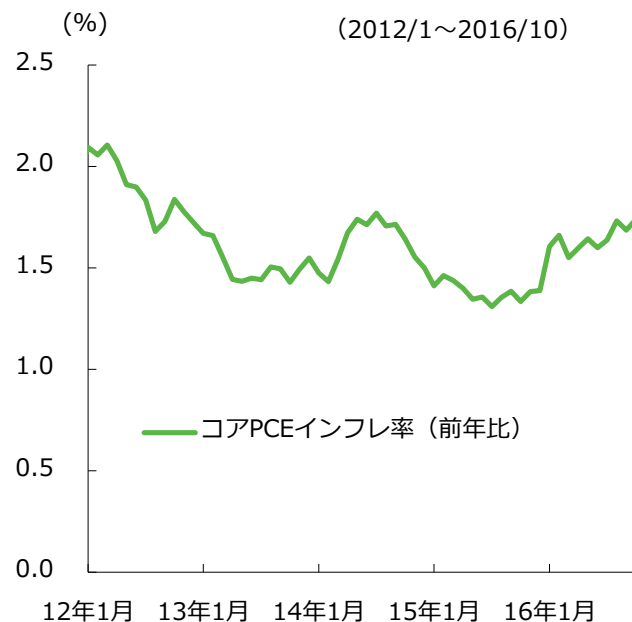
一方、日銀は9月に新しい金融緩和の枠組みとして“長短金利操作付き”量的・質的金融緩和の導入を決定しました。短期金利が▲0.1%、長期金利が0%程度で推移するように長期国債を買い入れ、インフレ率が2%を超えるまでマネタリーベースの拡大を継続する方針です。

今後は日米の金融政策の方向性の違いから円安米ドル高が進む可能性が高いと予想されます。

### <米ドル/円、米10年国債利回りの推移>



### <米国のインフレ率の推移>



出所：Bloomberg